

2021年度決算概要
2022年度業績予想
および「中期経営計画2023」進捗

2022/5/10

 住友重機械工業株式会社
社長 下村 真司

INDEX

01

2021年度決算概要

02

2022年度業績予想

03

「中期経営計画2023」進捗

01

2021年度決算概要

＜前期比較＞

- ・ **受注高** : 世界的に機械需要は増加基調となり、すべてのセグメントで増加し過去最高。
- ・ **売上高** : 受注と同様の理由で、すべてのセグメントで増加し過去最高。
- ・ **営業利益** : 原材料や調達品の価格上昇と需給逼迫の影響を受けたが、売上高の増加などを背景に、すべてのセグメントで増加。

単位：億円	2020年度 実績	2021年度		増減	
		直近予想(21年10月)	実績	直近予想(21年10月)比	前期比
受注高	8,139	9,900	10,753	853	2,614
売上高	8,491	9,500	9,440	△60	949
営業利益	513	600	657	57	143
営業利益率	6.0%	6.3%	7.0%	0.6%	0.9%
経常利益	495	570	648	78	153
経常利益率	5.8%	6.0%	6.9%	0.9%	1.1%
特別損益	△58	△20	△25	△5	33
税金等調整前当期純利益	438	550	624	74	186
親会社株主純利益	268	340	441	101	173
親会社株主利益率	3.2%	3.6%	4.7%	1.1%	1.5%
ROIC	6.1%	6.8%	7.3%	0.5%	1.2%
1株当たり配当	65円	90円	115円	25円	50円
為替レート(ドル)	¥106	¥110	¥112		

01

セグメント別業績

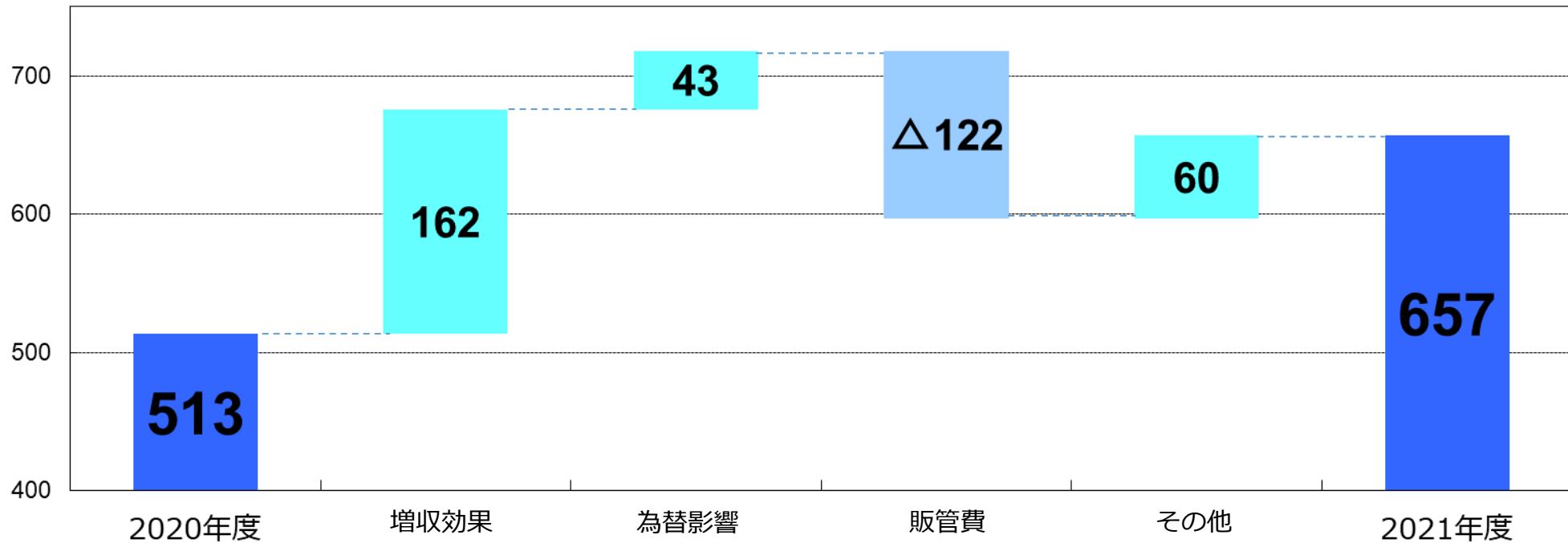
- ①受注 : 国内や欧米で中小型の変減速機／ロボット用精密減速機／モータの需要に加え、半導体関連の需要も好調であったこと、油圧シヨベルで国内の堅調に加えて、北米の需要が増加したことから大幅増加。
- ②売上 : 全セグメントで増加。
- ③営業利益 : 売上の増加に伴い、利益も増加。

単位：億円	受注高 ①			売上高 ②			営業利益 ③				
	2020年度実績	2021年度実績	増減	2020年度実績	2021年度実績	増減	2020年度実績 /営業利益率(%)		2021年度実績 /営業利益率(%)		増減
メカトロニクス	1,366	1,945	579	1,334	1,610	275	31	2.3	64	4.0	33
(プラスチック加工機械)	885	1,137	252	836	1,058	222					
(その他)	962	1,754	792	1,206	1,248	42					
インダストリアル マシナリー	1,846	2,890	1,044	2,042	2,306	264	159	7.8	193	8.4	34
(油圧シヨベル)	1,807	2,538	731	1,745	2,107	361					
(その他)	1,254	1,463	209	1,274	1,307	33					
ロジスティクス & コンストラクション	3,060	4,001	941	3,019	3,414	395	136	4.5	193	5.7	58
エネルギー&ライフライン	1,807	1,856	48	2,035	2,051	15	167	8.2	182	8.9	15
その他	59	61	2	60	60	△1	21	-	24	-	4
合計	8,139	10,753	2,614	8,491	9,440	949	513	6.0	657	7.0	143

01

営業利益増減分析

単位：億円



<増収効果 セグメント別概数>

単位：億円

メカトロニクス	60
インダストリアル マシナリー	40
ロジスティクス&コンストラクション	60
エネルギー&ライフライン	2

<販管費>

売上増に伴う販売運送費および人件費などが増加

01

連結貸借対照表（資産の部）

単位：億円	2021/3末	2022/3末	増減
流動資産	6,136	6,481	345
現預金	995	888	△107
売上債権	2,829	2,948	118
棚卸資産	2,002	2,321	320
その他	310	324	14
固定資産	4,171	4,468	298
有形固定資産	2,758	3,010	252
無形固定資産	768	776	8
投資その他の資産	645	683	38
資産合計	10,307	10,949	642

- 総資産：
売上高の増加、設備投資の増加に伴い増加。
- 売上債権：
工事進行基準案件が進捗したエネルギー&ライフライン、海外を中心に売上高が増加したメカトロニクスで増加。
- 棚卸資産：
受注増に伴い、メカトロニクス、インダストリアル マシナリーで増加。一部に部品供給遅れや生産能力不足によるリードタイム長期化の影響あり。
- 有形固定資産：
メカトロニクスを中心に積極的な設備投資により増加。

01

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：億円	2021/3末	2022/3末	増減
負債	5,258	5,281	23
買掛債務	1,603	1,726	124
有利子負債	1,244	1,113	△132
その他	2,411	2,442	32
純資産	5,049	5,668	619
株主資本	4,462	4,789	327
その他の包括利益累計額	445	725	279
非支配株主持分	142	155	12
負債・純資産合計	10,307	10,949	642
ネット有利子負債比率	2.4%	2.1%	△0.4%
自己資本比率	47.6%	50.4%	2.7%

■買掛債務：

受注増に伴い、エネルギー&ライフラインを除く他のセグメントで増加。

■有利子負債：

現預金を107億円取り崩し。

■純資産：

利益剰余金が328億円増加。
円安に伴い為替換算調整勘定が226億円増加。

01

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

区 分	2020年度	2021年度	増減
営業活動	641	617	△25
税金等調整前当期純利益	438	624	186
減価償却費	297	309	12
運転資本	△116	△287	△172
その他（税金等）	22	△29	△50
投資活動	△437	△497	△59
（フリーキャッシュ・フロー）	204	120	△84
財務活動	△80	△281	△201
現金・現金同等物増減	117	△113	△230
現金・現金同等物期末残高	962	850	△113

■ 営業キャッシュ・フロー：

当期純利益の改善により、運転資本増加を補いプラス。前期比25億円の減少に留まる。

■ 投資キャッシュ・フロー：

高水準の投資を継続。

■ キャッシュ・フロー 指標トレンド

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
フリー キャッシュ・ フロー（億円）	333	2	△215	204	120
債務償還年数 （年）*1	0.9	1.3	3.4	1.9	1.8
インタレスト・ カバレッジ・ レシオ（倍）*2	72.5	51.2	30.5	66.2	81.8

*1 有利子負債÷営業キャッシュ・フロー

*2 営業キャッシュフロー÷利払い

02

2022年度業績予想

02

2022年度の決算期変更について

【2022年度 業績予想について】

当期（2022年12月期）より、決算期（事業年度の末日）を12月31日に変更。

移行期となる当期は、住友重機械工業および国内子会社（以後「国内」）について、

2022年度は9カ月となるため、【参考】として**2023年1月～3月予想を合算した12カ月予想**も掲載。

	2021年度	2022年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	2023年度
国内	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2022年12月 (9カ月)	4月～6月 (3カ月)	7月～9月	10月～12月	2023年1月～2023年12月
海外	2021年1月～2021年12月	2022年1月～2022年12月 (12カ月)	1月～6月 (6カ月)			

	2022年				2023年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
国内		1Q	2Q	3Q	
		2022年度上期		2022年度下期	
		2022年度 国内 9カ月			
	【参考】2022年度 国内12カ月				
海外		1Q	2Q	3Q	
		2022年度上期		2022年度下期	
		2022年度 海外 12カ月			

02

2022年度 業績予想

- 設備投資／機械需要は2022年度も堅調と想定。
- 現時点で把握できる一定のコストアップ要因を織り込み。
- サプライチェーン混乱は一時的なものに止まらず、さらに悪化する恐れあり。
- 地政学リスク・感染症影響などは先行き不透明で、注視が必要。

単位：億円	2020年度 実績 (2020.4-2021.3)	2021年度 実績 (2021.4-2022.3)	2022年度 予想 (国内9カ月) (2022.4-2022.12)	【参考】2022年度 予想 (国内12カ月) (2022.4-2023.3)
受注高	8,139	10,753	8,800	10,300
売上高	8,491	9,440	8,500	10,100
営業利益	513	657	510	640
営業利益率	6.0%	7.0%	6.0%	6.3%
経常利益	495	648	490	620
経常利益率	5.8%	6.9%	5.8%	6.1%
特別損益	△58	△25	△20	△20
親会社株主純利益	268	441	300	390
親会社株主利益率	3.2%	4.7%	3.5%	3.9%
1株当たり配当	65円	115円	90円	-
配当性向	29.8%	32.0%	36.8%	-
ROIC(税引後)	6.1%	7.3%	7.0%	-
【参考】ROE	5.6%	8.5%	7.2%	-
為替レート(ドル)	¥106	¥112	¥120	¥120

02

2022年度 セグメント別業績予想

単位：億円	受注高			売上高			営業利益					
	2021年度実績	2022年度予想(9カ月)	【参考】2022年度予想(12カ月)	2021年度実績	2022年度予想(9カ月)	【参考】2022年度予想(12カ月)	2021年度実績 /営業利益率(%)		2022年度予想(9カ月) /営業利益率(%)		【参考】2022年度予想(12カ月) /営業利益率(%)	
メカトロニクス	1,945	1,740	1,930	1,610	1,760	1,950	64	4.0	95	5.4	110	5.6
(プラスチック加工機械)	1,137	940	1,030	1,058	960	1,050						
(その他)	1,754	1,440	1,770	1,248	1,260	1,590						
インダストリアル マシナリー	2,890	2,380	2,800	2,306	2,220	2,640	193	8.4	170	7.7	230	8.7
(油圧シヨベル)	2,538	1,930	2,340	2,107	1,980	2,400						
(その他)	1,463	1,080	1,270	1,307	1,100	1,320						
ロジスティクス & コンストラクション	4,001	3,010	3,610	3,414	3,080	3,720	193	5.7	145	4.7	180	4.8
エネルギー&ライフライン	1,856	1,630	1,900	2,051	1,390	1,720	182	8.9	75	5.4	90	5.2
その他	61	40	60	60	50	70	24	-	25	-	30	-
合計	10,753	8,800	10,300	9,440	8,500	10,100	657	7.0	510	6.0	640	6.3

02

メカトロニクス

21年度：国内や欧米で中小型の変減速機やロボット用精密減速機、モータの需要が増加し、受注、売上、営業利益はともに前期比増加。

22年度*：市況は堅調に推移する想定だが、前年にあった先行発注などが減り、受注は減少するも受注残があることから、売上、営業利益は増加。

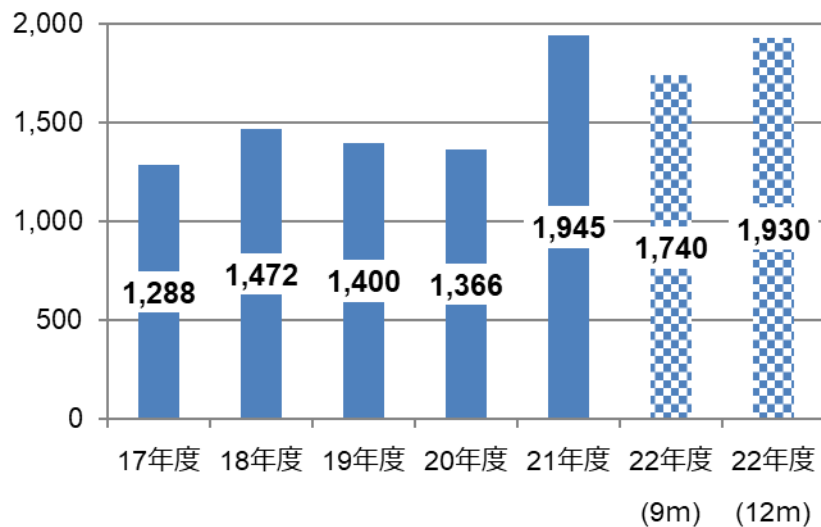
*22年度は国内12カ月での予想。以後、他セグメントでも同様。

単位：億円	2020年度 実績	2021年度				2022年度			
		21年10月 予想	実績	前期比 増減	21年10月 予想比増減	予想 (9カ月)	前期比	【参考】 予想(12カ月)	前期比
受注高	1,366	1,750	1,945	579	195	1,740		1,930	△15
売上高	1,334	1,630	1,610	275	△20	1,760		1,950	340
営業利益	31	75	64	33	△11	95		110	46
営業利益率 (%)	2.3	4.6	4.0	1.6	△0.6	5.4		5.6	1.7
受注残高	471		806	335					

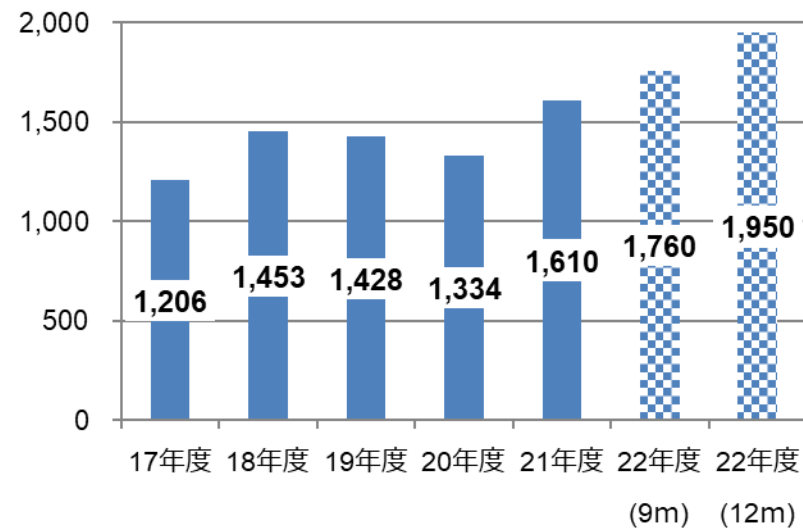
02

メカトロニクス

受注高

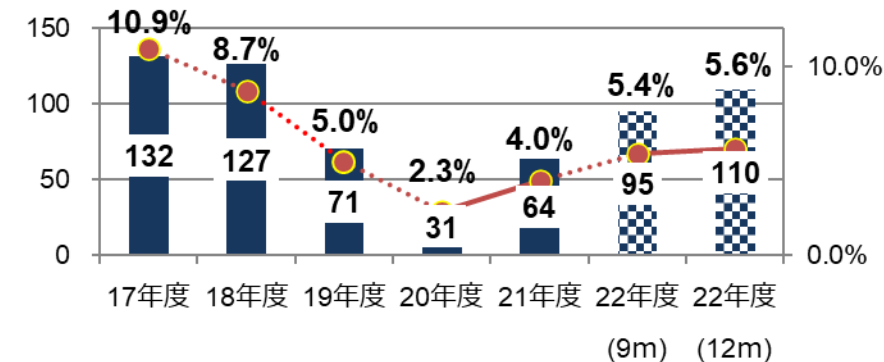


売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)

単位：億円



<参考>

・変減速機事業 機種別売上構成 (概数)

	ギヤモータ (中型)	ギヤボックス (大型)	精密用途 (MCD)	サービス	電機制御	合計
2021年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%
2020年度	40%	20%	10%	10%	20%	100%

02

インダストリアル マシナリー

<プラスチック加工機械>

21年度：中国の電気電子関連や欧州での需要増加により、受注、売上、営業利益はともに増加。

22年度：前年にあった多台数案件が減り受注は減少、また、資材費の高騰などにより営業利益が減少。

<その他>

21年度：半導体関連の需要が増加し受注、売上は増加したものの、売上の機種構成変化により営業利益は減少。

22年度：半導体関連は引き続き堅調で、受注、売上、営業利益はともに増加。

単位：億円	2020年度 実績	2021年度				2022年度			
		21年10月 予想	実績	前期比増減	21年10月 予想比増減	予想 (9カ月)	前期比	【参考】 予想(12カ月)	前期比
プラスチック加工機械	885	1,070	1,137	252	68	940		1,030	△107
その他	962	1,410	1,754	792	344	1,440		1,770	17
受注高	1,846	2,480	2,890	1,044	410	2,380		2,800	△90
プラスチック加工機械	836	1,045	1,058	222	13	960		1,050	△9
その他	1,206	1,215	1,248	42	33	1,260		1,590	343
売上高	2,042	2,260	2,306	264	46	2,220		2,640	334
営業利益	159	160	193	34	33	170		230	37
営業利益率 (%)	7.8	7.1	8.4	0.6	1.3	7.7		8.7	0.3
受注残高	858		1,442	584					

02

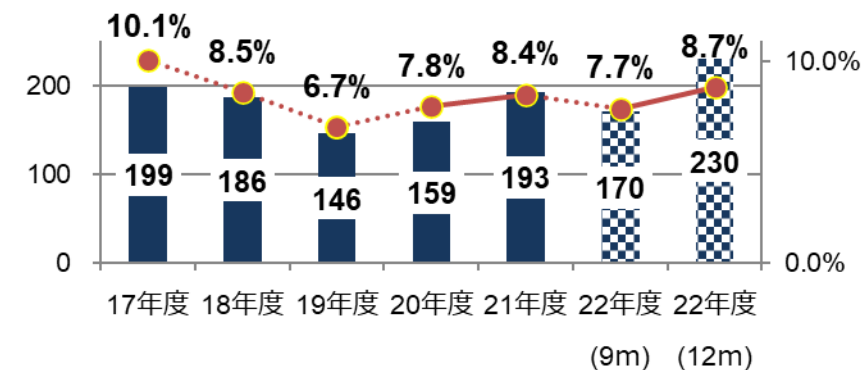
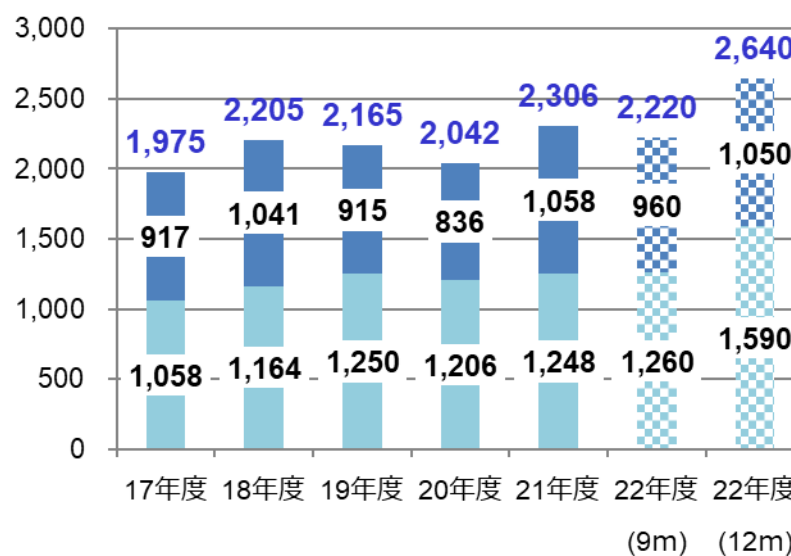
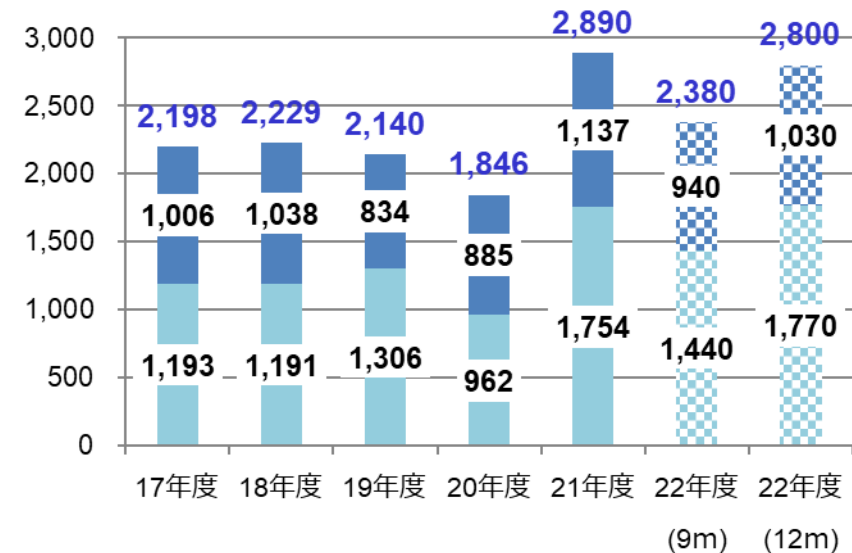
インダストリアル マシナリー

受注高

売上高

営業利益(左軸)・利益率(右軸)

単位：億円



■ プラスチック加工機械
■ その他

<参考>

・射出成形機 売上業種別構成 (概数)

	電気・電子 関連	自動車	医療・食品 容器・雑貨	その他	合計
2021年度	25%	15%	45%	15%	100%
2020年度	25%	15%	50%	10%	100%

・半導体製造装置 (イオン注入装置) 事業業績 (概数)

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予想(12m)
受注	460	230	610	490
売上	320	400	360	480

02 ロジスティクス&コンストラクション

<油圧ショベル>

21年度：国内が堅調で、北米の需要も増加し、受注、売上、営業利益ともに増加。

22年度：受注は減少するが、受注残があることから売上、営業利益は増加。

<その他>

21年度：建設用クレーンは、国内や北米の需要が回復し、受注、売上、営業利益ともに増加。

運搬機械は、造船や鉄鋼関連の需要回復が遅れ、受注、売上、営業利益ともに減少。

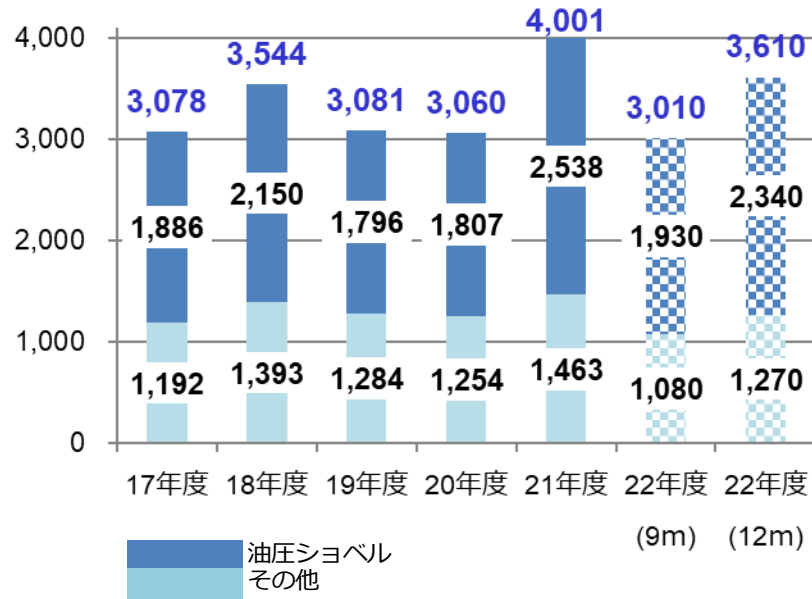
22年度：前年の反動もあり受注は減少。売上は増加するがコストアップなどにより営業利益が減少。

単位：億円	2020年度 実績	2021年度				2022年度			
		21年10月 予想	実績	前期比増減	21年10月 予想比増減	予想 (9カ月)	前期比	【参考】 予想(12カ月)	前期比
油圧ショベル	1,807	2,400	2,538	731	138	1,930		2,340	△198
その他	1,254	1,180	1,463	209	283	1,080		1,270	△193
受注高	3,060	3,580	4,001	941	421	3,010		3,610	△391
油圧ショベル	1,745	2,240	2,107	361	△133	1,980		2,400	293
その他	1,274	1,270	1,307	33	37	1,100		1,320	13
売上高	3,019	3,510	3,414	395	△96	3,080		3,720	306
営業利益	136	170	193	58	23	145		180	△13
営業利益率 (%)	4.5	4.8	5.7	1.2	0.8	4.7		4.8	△0.8
受注残高	1,269		1,856	587					

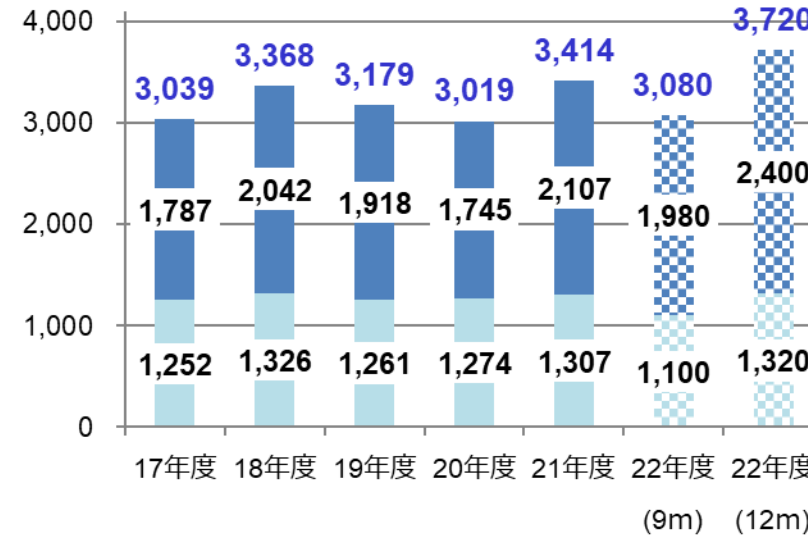
02

ロジスティクス&コンストラクション

受注高

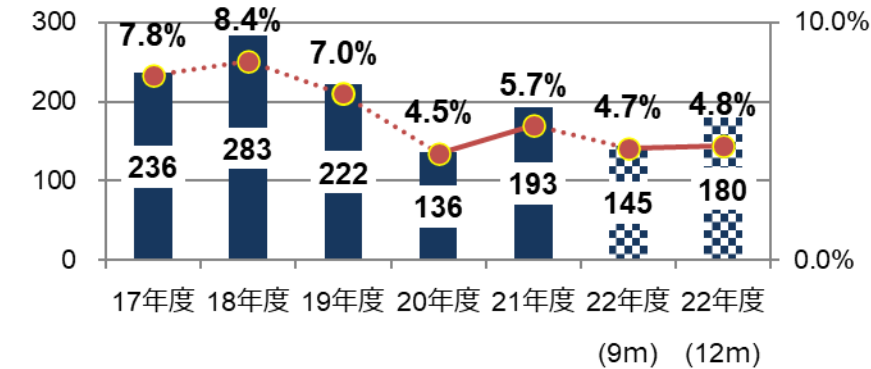


売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)

単位：億円



<参考>

・油圧ショベル 地域別需要/売上高推移 (概数)

単位：万台(上段)/億円(下段)		北米	欧州	アジア (除く中国)	中国*	日本	その他	合計
2021年度	需要	4.0	4.8	2.4	4.9	2.7	-	
	売上高	468	151	269	318	756	145	2,107
2020年度	需要	2.5	3.5	1.4	7.0	2.6	-	
	売上高	299	100	169	373	704	101	1,745

*外資のみ

・産業用クレーン 業種別受注構成 (概数)

	電力	鉄鋼	造船	港湾	その他	合計
2021年度	40%	25%	15%	10%	10%	100%
2020年度	25%	40%	20%	10%	5%	100%

・建設用クレーン事業 (国内) 業績 (概数) (グループ内売上含む)

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予想(12m)
受注	360	280	430	360
売上	360	310	370	390

02

エネルギー & ライフライン

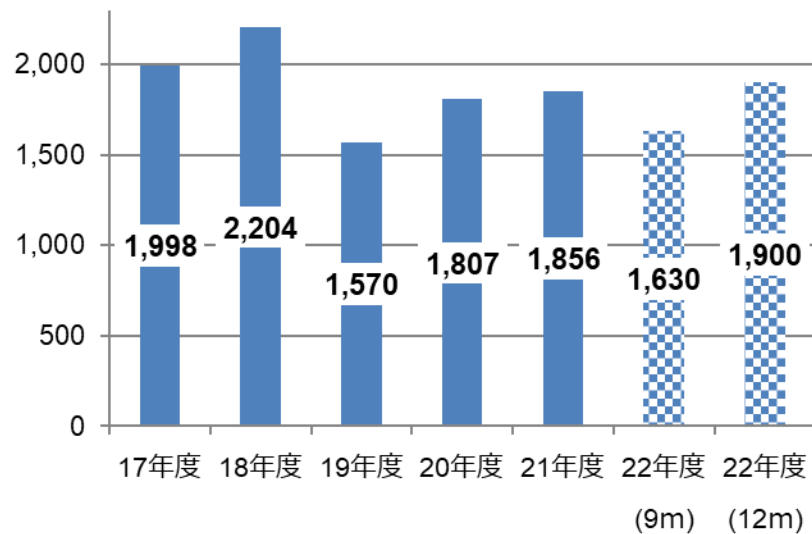
- 2 1 年度**：エネルギープラントは、国内のバイオマス発電設備の大型案件が前年に比べ減少したことから受注は減少。受注残があったことから売上、営業利益はともに増加。その他は、受注は増加したものの、売上、営業利益はともに減少。
- 2 2 年度**：受注は前期並みも、エネルギープラントの国内の売上対象案件が減少することから、売上、営業利益が減少。

単位：億円	2020年度 実績	2021年度				2022年度			
		21年10月 予想	実績	前期比 増減	21年10月 予想比増減	予想 (9カ月)	前期比	【参考】 予想(12カ月)	前期比
受注高	1,807	2,030	1,856	48	△174	1,630		1,900	44
売上高	2,035	2,040	2,051	15	11	1,390		1,720	△331
営業利益	167	170	182	15	12	75		90	△92
営業利益率 (%)	8.2	8.3	8.9	0.7	0.5	5.4		5.2	△3.6
受注残高	2,760		2,566	△195					

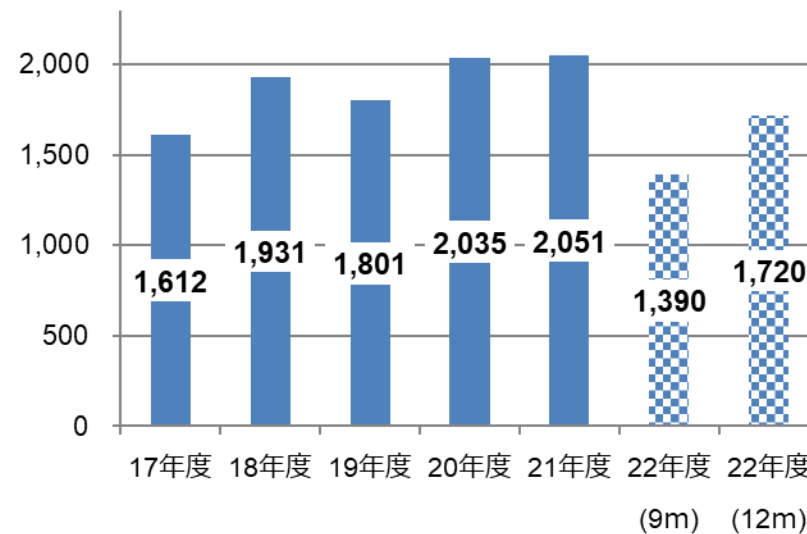
02

エネルギー＆ライフライン

受注高

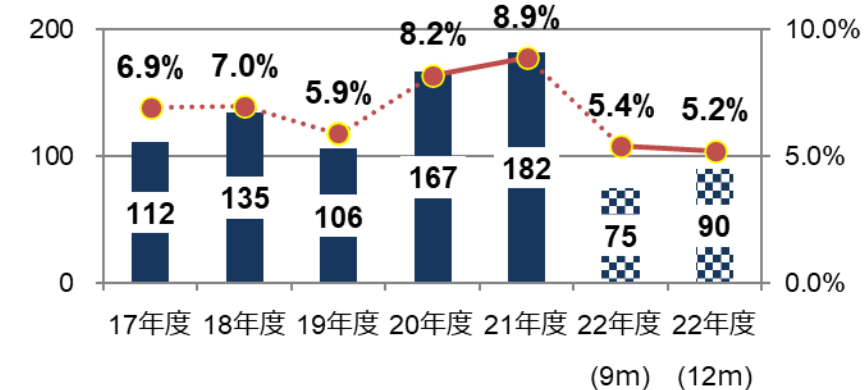


売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)

単位：億円



<参考>

・エネルギープラント事業 主要受注案件

顧客	建設場所	運転開始予定時期	ボイラ形式 *
坂出バイオマスパワー	香川県坂出市	2025年	75MW級CFB
MTエナジー	宮崎県都城市	2023年	5MW級CFB
仙台港バイオマスパワー	宮城県仙台市	2025年	112MW級CFB

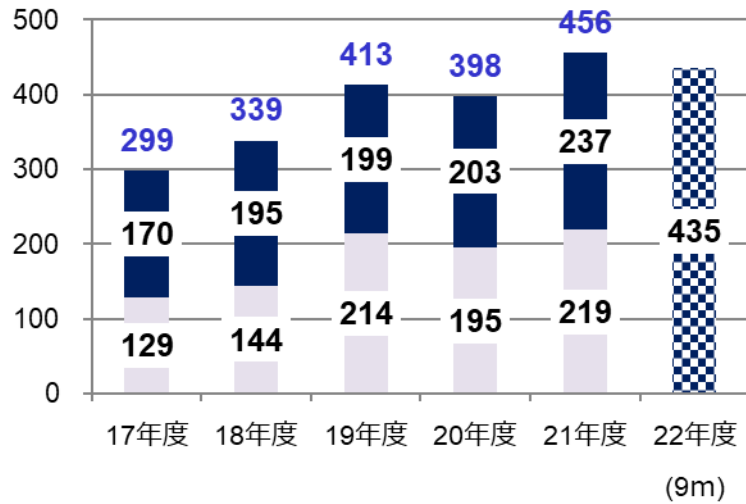
*CFB：循環流動層



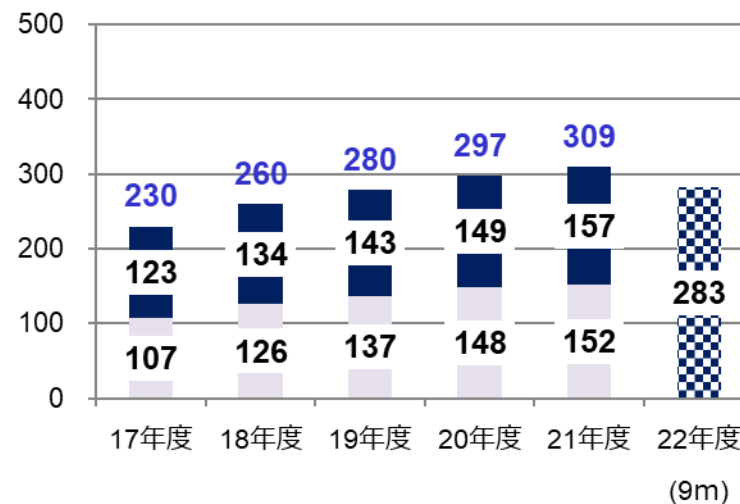
設備投資・減価償却費・研究開発費・人員・為替感応度

設備投資*

*実績はキャッシュアウトベース、
予想は決定ベース

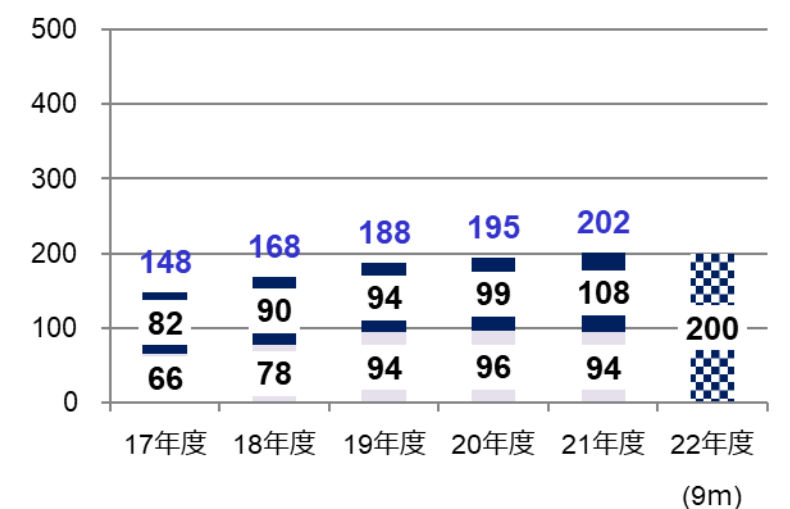


減価償却費



研究開発費*

*実績はPLベース、
予想は決定ベース



人員 (各年度終了3月末時点)

単位：人	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全社計	22,543	23,635	24,050	24,584

為替感応度 (2022年度予想)

単位：億円	ドル	ユーロ	合計
1円の変動による営業利益への影響額*	5.2	1.3	6.5

*2022年度想定レートは¥120（ドル）、¥130（ユーロ）



地域別売上高

<為替レート(ドル)¥112> 単位：億円	2021年度 通期 (2021.4-2022.3)							
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高
メカトロニクス	276	350	145	159	97	1,027	583	1,610
(うち プラスチック加工機械)	88	267	153	332	50	889	168	1,058
インダストリアル マシナリー	192	370	315	568	56	1,502	804	2,306
(うち 油圧ショベル)	468	151	269	318	145	1,351	756	2,107
ロジスティクス&コンストラクション	1,012	162	321	320	154	1,968	1,445	3,414
エネルギー&ライフライン	116	200	173	13	201	704	1,347	2,051
その他	-	-	-	0	-	0	60	60
合計 / 売上高比率(%)	1,596 16.9	1,081 11.5	955 10.1	1,060 11.2	508 5.4	5,200 55.1	4,239 44.9	9,440
<為替レート(ドル)¥106> 単位：億円	2020年度 通期 (2020.4-2021.3)							
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く中国)	中国	その他	海外 計	日本	総売上高
メカトロニクス	219	264	124	109	77	793	541	1,334
(うち プラスチック加工機械)	99	208	106	252	42	707	129	836
インダストリアル マシナリー	207	282	411	391	45	1,337	705	2,042
(うち 油圧ショベル)	299	100	169	373	101	1,041	704	1,745
ロジスティクス&コンストラクション	751	109	203	391	109	1,563	1,456	3,019
エネルギー&ライフライン	84	131	265	12	186	678	1,357	2,035
その他	-	-	-	0	-	0	60	60
合計 / 売上高比率(%)	1,262 14.9	786 9.3	1,003 11.8	904 10.6	417 4.9	4,372 51.5	4,119 48.5	8,491

03

「中期経営計画2023」進捗

03

「中期経営計画2023」：事業環境の変化

外部環境の織込み

事業への影響

事業課題

対応

中計23編成時織込み

- ・ ESGの急速な進展
- ・ 経済、安全保障での中国の影響力増
- ・ 情報価値の拡大・DX進展
- ・ Covid-19の長期化
- ・ 外生的なリスクの拡大、実体化



2021年度のトピックス

- ・ COP26合意（GHGネットゼロコミット）
- ・ 中国景気減速、ゼロコロナ政策と「台湾リスク」+ロシアのウクライナ侵略
- ・ 半導体需給不均衡長期化と戦略物資の自国生産強化：ブロック化・非グローバル
- ・ Covid-19蔓延続く、Withコロナへ転換
- ・ デフレからインフレへの急速な転換
- ・ 急速な円安進展



製造コスト
の上昇

業績織込み
売価改定

資本コスト
の上昇

BS効率化
サービス事業拡大

持続的な
成長

「環境・エネルギー」
「DX・自動化」の
商品開発促進による
新商品展開

- ・ 競争優位
- ・ 社会価値の
マネタイズ
- ・ ポートフォリオ
の見直し

新セグメントの
シナジー実現
「選択と集中」

03

「中期経営計画2023」：財務目標

■ 財務目標

単位：億円	2020年度実績	2021年度実績	2022年度予想 (9カ月)	【参考】 2022年度 予想 (12カ月)	2023年度 目標* (21年5月時点)	2023年度 目標* (22年5月時点)
受注高	8,139	10,753	8,800	10,300	10,000	10,700
売上高	8,491	9,440	8,500	10,100	9,700	10,500
営業利益	513	657	510	640	700	760
営業利益率	6.0%	7.0%	6.0%	6.3%	7.2%	7.2%
ROIC	6.1%	7.3%	7.0%	-	7.5%	7.5%
為替レート(ドル)	¥106	¥112	¥120	¥120	¥100	¥120
【参考】ROE	5.6%	8.5%	7.2%	-	8.0%	8.0%

■ 受注高：
堅調な受注環境により当初計画を過達見込

■ 売上高：
受注を反映し過達

■ 営業利益：
円安、コストアップを織込み
営業利益率維持し増益を計画

■ ROIC：
最終年度で、当初目標の
7.5%達成を目指す。

*決算期変更のため2023年度目標を見直
21年5月時点：23年4月～24年3月
22年5月時点：23年1月～23年12月

■ 投資計画

単位：億円	設備投資	研究開発費	M&A・新規事業
ポイント	主力事業および 情報化投資に重点	成長に向けた商品力強化	成長案件発掘
3カ年累計 (21年5月時点→22年5月時点)	1,000→1,170	740→680	400
2021年度実績*	322	218	0
2022年度(9カ月)予想* *決定ベース	435	200	-

■ 設備投資：
積極投資を継続。

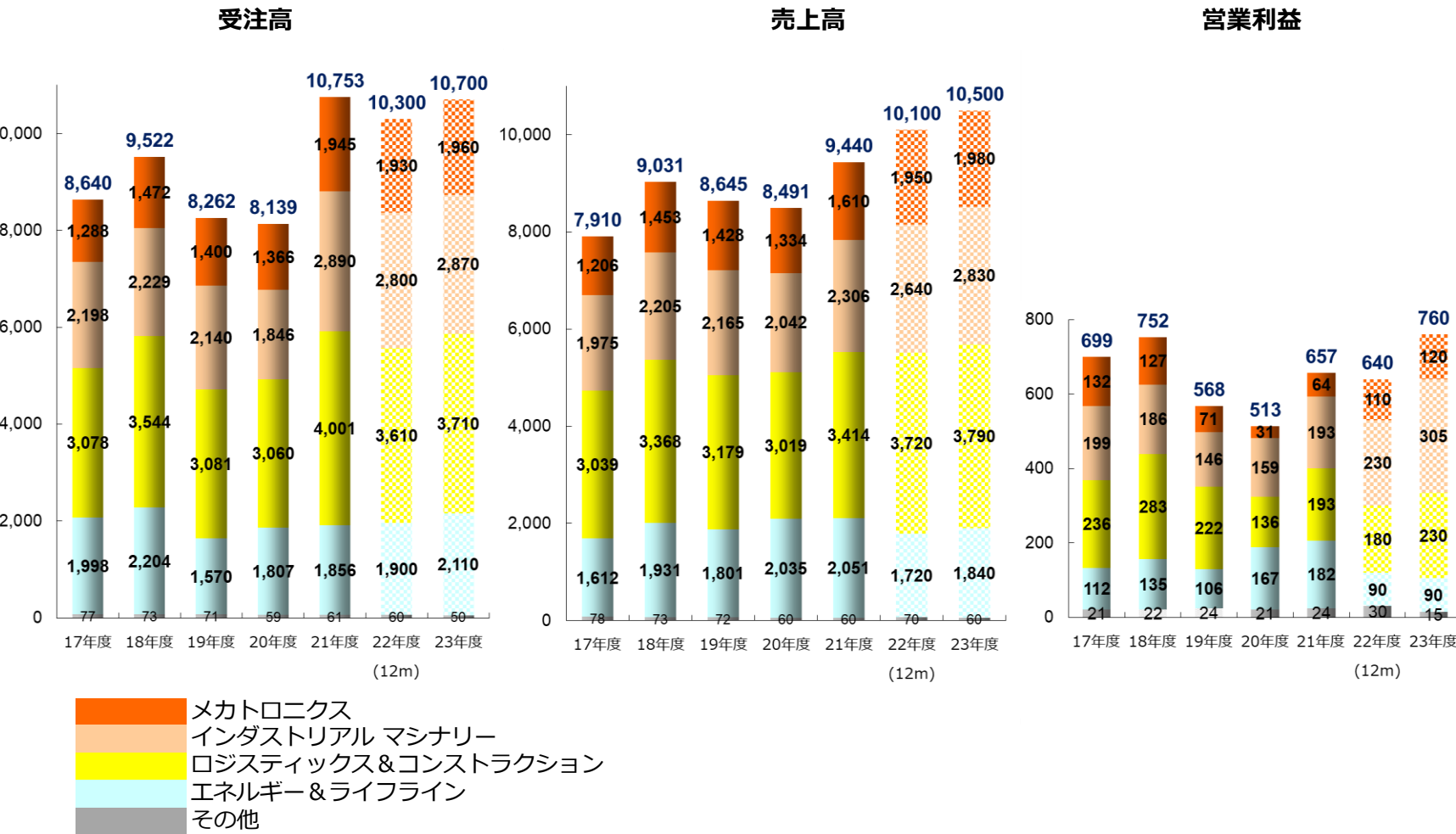
■ 研究開発費：
22年度9カ月のため累計見込を減額

■ M&A・新規事業：
機会あれば実施

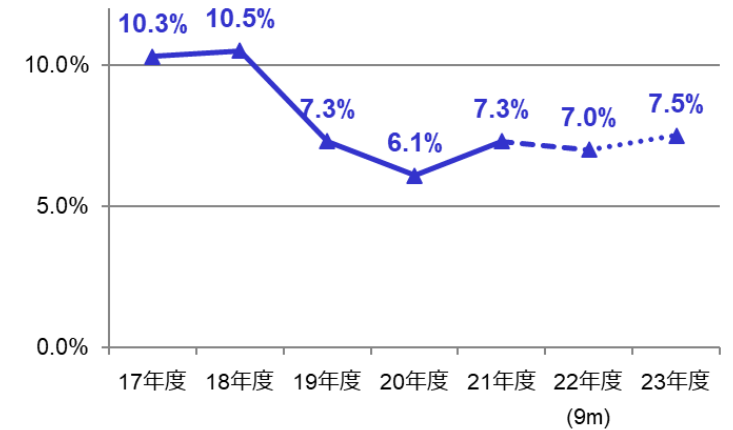
03

「中期経営計画2023」：財務数値推移(連結)

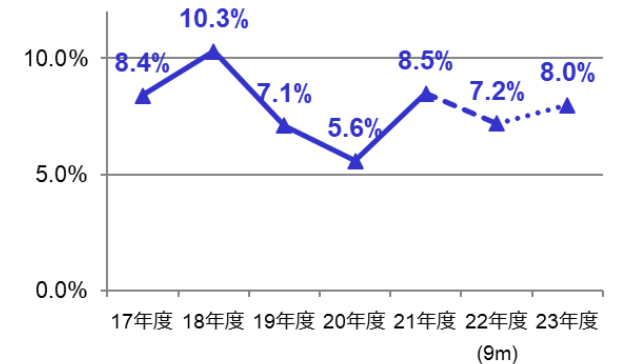
■ 受注／売上／営業利益 推移 単位：億円



■ ROIC 推移



(参考) ROE 推移



03

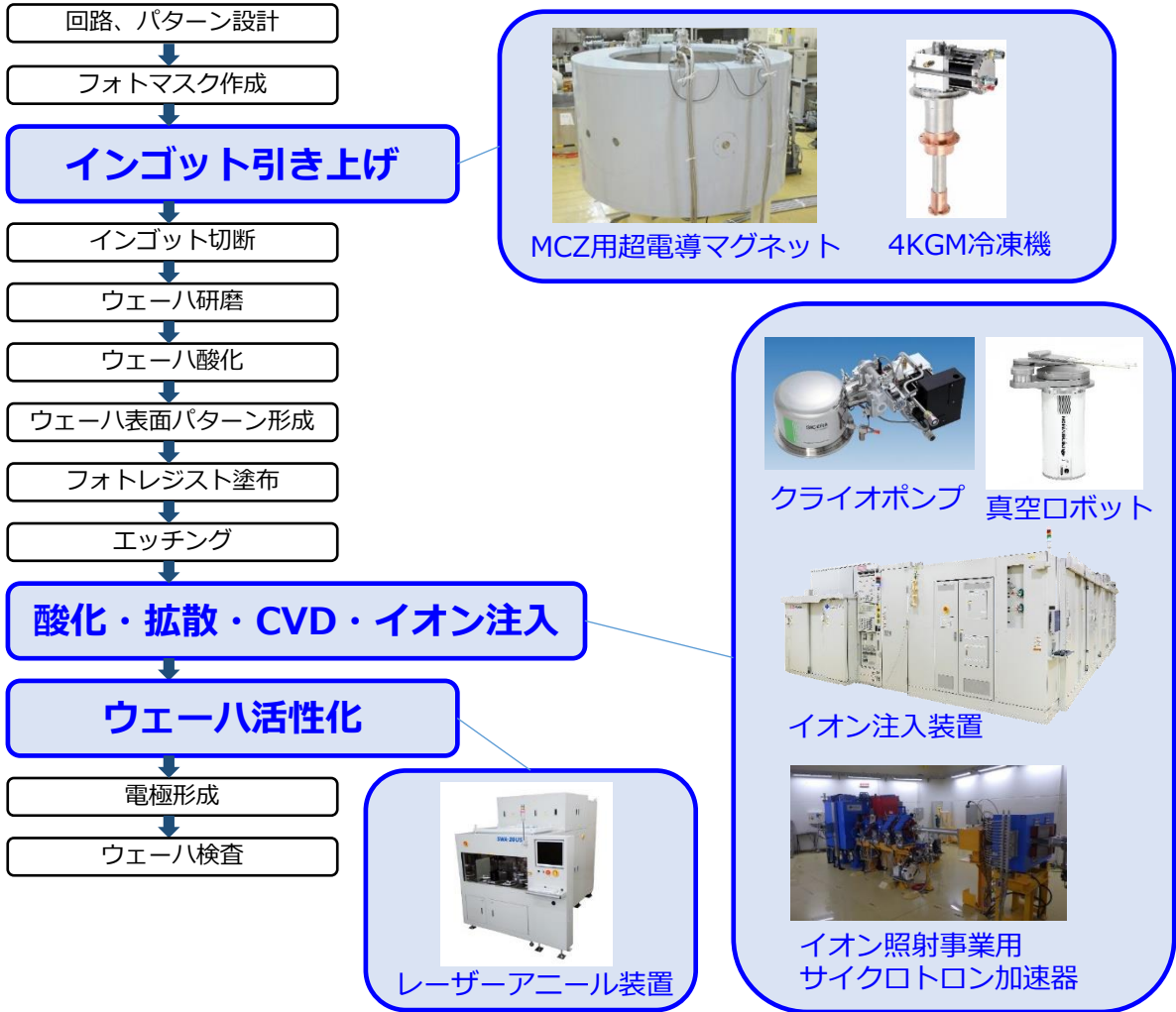
「中期経営計画2023」：基本方針の展開状況

基本方針	具体的展開
1. 強靱な事業体の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成長分野への積極的な設備投資並びに研究開発の実施 ■ アフターサービス事業の伸長 ■ B C Pによりサプライチェーン混乱下での業績確保
2. 企業価値向上のための変革	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初年度より1兆円超の受注を達成 ■ 半導体系機種や電機制御系機種の伸長 <p style="text-align: right;">…①</p>
3. 働きやすい会社への変革	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェンダーダイバーシティの推進 ■ リモート勤務体制の推進により、Covid-19下において、安定的に事業活動を実施
4. 製品・サービスによるSDGsへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「環境・エネルギー」「自動化・デジタルイノベーション」での開発の推進と新製品上市 <p style="text-align: right;">…②</p>
5. 事業を通じた環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ■ T C F D賛同 ■ 2030年CO2削減目標設定 ■ 2050年カーボンニュートラルを目指す <p style="text-align: right;">…③</p>

03 「中期経営計画2023」：2...① 当社における半導体製造関連事業

半導体製造工程*（前工程）

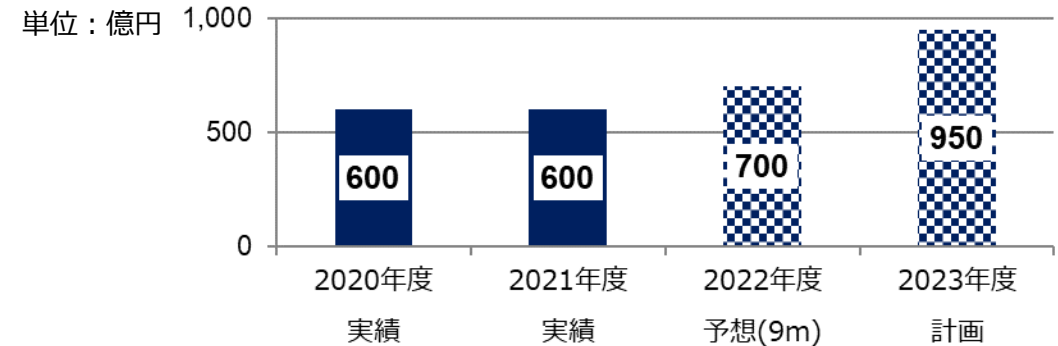
*工程の分類は日本半導体製造装置協会資料に一部当社加筆



当社が保有する半導体製造向製品とキーテクノロジー

製品	キーテクノロジーとの関係性 ◎：大 ○：中		
	ビーム制御	極低温	真空
レーザーアニール装置	◎		
4KGM冷凍機/クライオポンプ		◎	◎
真空ロボット			◎
イオン注入装置	◎		○
MCZ用超電導マグネット		◎	○
イオン照射事業	◎		○

半導体製造関連事業 売上額合計（概数）



03

「中期経営計画2023」：4…② 開発の重点領域

重点領域	開発のターゲット	2021年度 実績
環境	持続可能な産業に必要な環境保全技術開発 (排水・廃棄物処理技術)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい嫌気処理技術により油脂分解速度を大幅に向上、排水からの脱硫、発電技術開発を実施 ■ プラスチックの環境問題対応はケミカルリサイクルで、高品質に再生可能な重合プロセスを検証
エネルギー	脱炭素社会に向けた未来技術開発 (二酸化炭素・廃熱利用技術、プラント故障診断／運転支援技術)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 焼却灰や藻類を用いたCO₂固定化技術、化学蓄熱での廃熱利用技術開発を推進 ■ プラント運用支援システム(IZANA® *)は、開発・実証完了し、客先発電設備で運用開始
自動化	移動体やロボット商品の知能化・高度化、生産技術革新に向けた開発推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建設機械の運転支援、自動化技術をMBDの手法を用いて開発を推進、実機適用試験を実施 ■ センシング、情報処理技術を用いて、物流搬送機械の自動化領域を拡大
デジタルイノベーション	知能化技術・情報基盤技術を磨き上げ、各種知能を製品・サービスに実装	<ul style="list-style-type: none"> ■ センサフュージョンを用いた建設機械の周辺監視システムを試作、実機適用試験を実施 ■ 建設機械の故障診断技術は、特定市場にて試験運用を開始 ■ 産業機械の条件設定支援・自動化開発を推進

*IZANAは住友重機械工業(株)の登録商標です

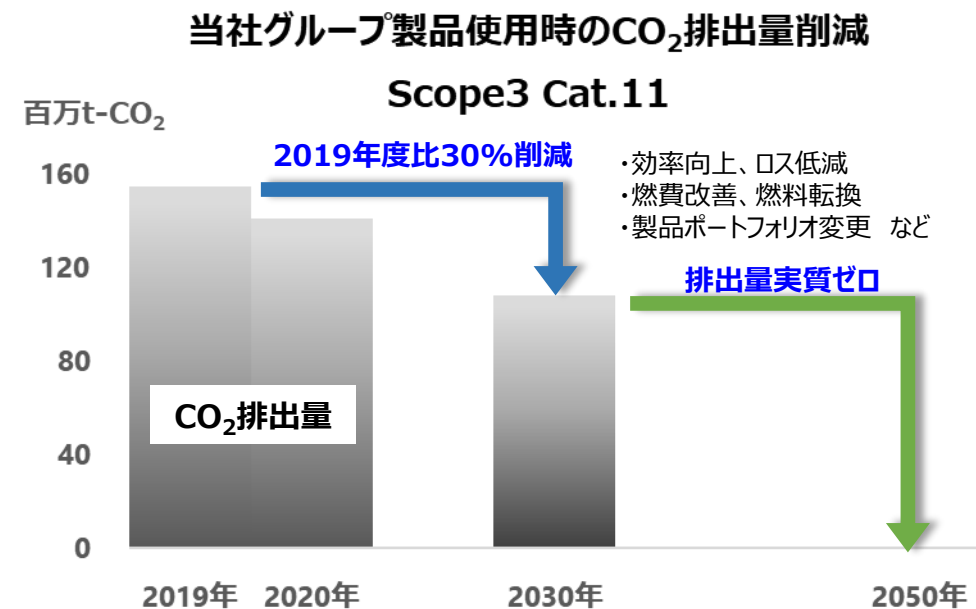
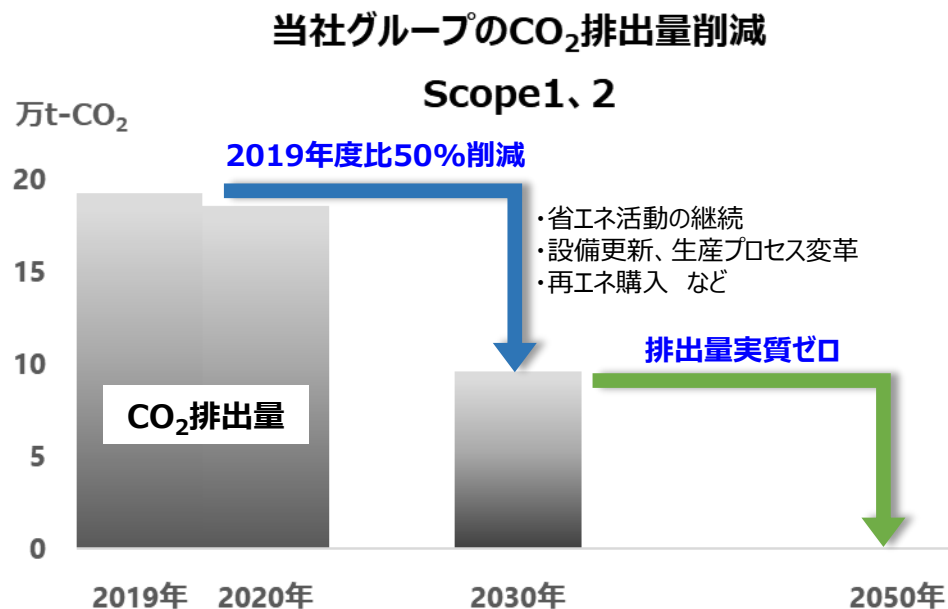
03 「中期経営計画2023」：5…③ サステナビリティ推進への取り組み

	2021年度 実績	課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ基本方針制定 "EcoVadis"*のブロンズメダルを取得 非財務情報開示拡充(ESG投資指数FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに選定) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会価値向上に向けたCSV推進 サステナビリティ重要課題の対応強化 開示情報発信量、質の改善
環境 (E)	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動問題対応加速 TCFD賛同 2030年CO2削減目標設定 2050年カーボンニュートラルを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> リスク、機会評価と対策立案 CO2削減目標、カーボンニュートラル達成に向けた施策立案・実施
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンCSR対応強化 職域接種等感染症対策実施 	<ul style="list-style-type: none"> 調達先との連携強化 サプライチェーンの人権問題対応 社員、協力員のウェルビーイング実現
ガバナンス (G)	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役比率向上 女性社外監査役就任 贈賄防止基本方針の制定 	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役の更なるプレゼンス向上 ジェンダーダイバーシティ

*EcoVadis：世界最大級の企業のサステナビリティ格付けプロバイダー。
 世界160か国、75,000社以上のサプライヤー企業を対象に環境、労働と人権、倫理、持続可能な調達の4側面で企業の持続可能性を評価。
 「ブロンズメダル」は業界内上位50%のスコア取得等の基準を満たした企業に授与される。
 当社グループは一般機械製造業界内で上位40%以内に入るスコアを獲得。

気候変動対応の加速

- ・ 当社製品製造時のCO₂排出量削減(2019年度比2030年50%削減)
- ・ 当社製品使用時のCO₂排出量削減(// 30%削減)
- ・ 2050年のカーボンニュートラル達成を目指す



自社の生産活動、製品・サービスを通じたCO₂削減により気候変動対策に貢献
⇒ 環境分野における価値創造のストーリー



将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。